

府と私設裁判所と相方の威喝に畏縮して。著しく事業を縮少し殆廢業同様の状態となり唯大きな商買さへしなれば咎められる心配もない。どうせ少し澤山仕入れるには餘程安いと見込まなければ買はぬ。安く買つて直の出るのを待つて居れば必賣惜みと言はれる。値が出てから賣れば暴利令で罰せられる。これでは商買は出來ツこはない。例へば米にしても地方の相場は常に都會の相場につれるのである。然るに買占めだの奸商だのと脅されるから。都會の商人はほんの目前の入用だけしか買はぬ。其結果は都會の倉庫には非常の品薄となる。品が少くな

れば値が上るのは當然である。かくして値が上つてから地方へ買出しに行けば地方は足元を見て一層強氣になる。これでは丸で暴利取締の爲に米價を昂騰させる様なものだ。

それから暴利を取締るといふことが中々六ヶ敷い場合があらうと思ふ。例へば茲に甲乙二人の商人があつて共に或商品を一萬圓で仕入れたとする。乙は其後間もなく之を一萬五百で丙に賣つた。丙は又之を一萬一千圓で丁に賣つた。丁は戊から懇望されて一萬千五百圓で賣つた。戊は又己に一萬二千圓に。己は一萬二千五百圓で再び丁

に譲つたといふ風に半年も立たぬ中に此品の市價は二萬圓以上にもなつた。其時に甲が始めて之れを賣つたら暴利に相違ないが。讀者諸君が甲であつたら市價は二萬圓以上でも自分は半年前に一萬圓で仕入れたのだらう。一萬何百圓以上には賣らぬと云ふかね。株券米穀等の賣買にこんな例が特に多いが。近頃喧しい綿絲等にもよく似た場合がある。例へば元綿の相場と労働賃銀等を計算して見れば。綿絲の市價が餘り高過ぎる。畢竟紡績會社が暴利を貪るのだと攻撃された時に。鐘紡の武藤君は自分の所で今日迄二百五十圓以上に賣つたことも約束したこ

ともない。疑があれば帳面でも見せると力んで辯明した。然るに當時の絲價は四百圓以上もした。これは誰がそんなに貪つたかといふと。綿絲を用ゆる機業家や仲買などが騰貴の趨勢に驚いて或は約束品の原料の爲に。或は前途の見込の爲に。二百五十圓でも六十圓でも。凡必要なだけ今の中に仕入れて置きたいと思ひ。直に紡績會社へ注文して見ると。どの工場でも向六ヶ月とか一ヶ年とか全然注文に應ずる餘裕なしと斷られる。絲の供給が絶へては死活問題である。血眼になつて自分の必要なだけ集めうとなる。二百八十圓よろしい。三百圓よろしいとな

る。其中に三百五十圓でも買はねばならぬ工場が出来る
 と。自分の用料に二百八九十圓で買った工場が。茲で賣
 つて工場を休んだ方が得だと考へて賣る。絲を賣つた後
 から織物の注文が來て四百圓の絲を使つても此注文を引
 受ければ儲かるとなる。四百圓といふ絲價が出來て來
 る。此の如くしてははじめ二百五十圓で紡績工場の門を積
 立した絲が短日月の間に四百圓以上になり。此場合一體
 誰れがそんな相場をつけたのだ。誰が暴利を貪つたのだ
 相場をつけたのは木綿を買ふお客である。もつと高くな
 つても木綿の需要が減じない限りは。絲價は下らないの

だ。而して之が爲に意外の利益を得たものも澤山あらう
 が。故意に暴利を貪つたものは恐くは一人もなからう。

此絲價を調節するの途如何。海外へ高く賣れるのだから
 先づ棉絲及其製品の輸出を禁じる。それから國民の木
 綿の需要を自制せしめる。此二つは適藥ではあらうが。
 輸出禁止は折角我商權の擴張しつゝある矢先きを抑へる
 ので甚遺憾である。國民の自制の方は行はれれば有功だ
 が行はしめることが困難である。且國內で節約してもド
 シ〜海外へ出れば所謂尻抜けになるかもしれぬ。故に
 最後の手段としては前に論じた通り矢張生産の増加であ

る。我紡績器械が増加していくらでも注文に應じ。又木綿織物工場も増設されて内外の需要に追廻はされぬ様になつて来れば絲價も木綿價も相當の所迄は自然に下るのだ。今日東京の電話が二千圓もするものも此需要に追廻はされて居る好適例である。其直段も甚暴利を貪つて居る様であるが電話屋が之で暴富をなす譯でもなからう。そして電話屋がなかつたら世人は非常に困るだらうと思ふ煙草や食鹽等でも品切れとなつてから。他人の買つて居るものを讓つて貰ふには随分高く買ふことも多い様だ。

所が茲で困難な問題はドシ／＼生産の増加する様に奨

勵して行くのはよいが。一朝不景氣が來た時には破綻百出收拾すべからざるものになつて大恐慌が起る。それが恐ろしいので今から産業の勃興を抑制する策をとると。供給が需要に追着かぬから物價は益上る。此間をうまく舵を操つて行くことが政治家の六ヶ敷い所だが。如何に上手な船頭でも大風波に逢つて少しも船を揺かさぬ様には出來ぬ。一弛一張は經濟界の現象だから此間を乗り切るには。進み過ぎると思へば抑へ。後れると思へば奨勵する迄のもので。所謂程度問題ではあるが。絶対に波動を除くことは出來ぬから。反對黨の攻撃から免れること

も六ヶ敷い。さりとして人力の能く及ぶ所に非すと捨て、置かれては猶困る。昨年まで世間から通貨を収縮すべしとの注文が殺到するにも拘らず。政府が貿易保護主義を執つたのも。昨秋以來金利引上金融緊縮主義を採つたのも。其巧拙と當否は暫く論せず。物價調節と産業保護との兩全策に苦心して居るものと見てよからう。

此等の政策が如何に民業に影響するかの一例を舉げて見れば。先達加悦町へ行つた時土地の有力者から聞く所では。近年農家の懐工合が非常によい爲に縮緬の需要は甚しく激増し。如何に高い絲を使つても作りさへすれば

間に合はぬ程賣れる。爲に新工場の特興やら舊工場の増設やらで此地方のみで一ヶ年三千万圓からの縮緬が出る男工女工の収入も少からぬもので。農業使用人や人力車夫は缺乏し。自働車は最多く利用され。物價は著く高く暮方に工女の多く徘徊する道路を通過すれば。京阪電車の匂ひがするさへ云はるゝ程香水紅粉等が彼等に用ひらるゝ様になつた。然るに近頃に至つて京阪の銀行が俄かに金融を引締めて來たので。我々は非常に心配して居る。元來土地に大資本があつてこれだけの發展をした工業ではない。京阪の資本を使つてやつて居るのである。

大抵の工場で今年一杯位使用する原料は買つて居るから（非常に高いにも拘らず）年末迄は仕事を休まねばならぬ様な心配はない。又出来た縮緬も必賣れるに違ひないが縮緬の代價として問屋から受取つた手形が銀行へ持つて行つて金に代るか代らぬかゞ生死の瀬戸である。代らぬとなると職工の賃金も拂へぬことになる。さうなると一時に大恐慌が起るから心配して居るといふことであつた全國的に見れば金融引締の必要は確にあるが。加悦谷一地方的に見れば餘り締められれば絞殺されるのである。而して茲で機屋が蹉跌して縮緬の産出が減すれば縮緬は

一層高くなるに極つて居る。之と反對の例は先年米價暴落の節農民保護の爲に農業倉庫といふものを作つて。米を預かつて金融をつける様にしてやつたのが。今日となつては百姓の投機心を助長し。益米價を高くする一機關となつた傾も見へる。低利資金の如きも往々農業倉庫と同一の作用をして居る。

近來喧しい都市住宅なども同じく深思熟慮すべき問題だと思ふ。眉に火の着く様に住宅問題を喋いて居るのは自分の利害から立論して居るのが少くない様だ。所謂學者なども亦同じ様なのが見へる。一體學者といふものは

皆恐ろしい賢いものだと思つて居たが。西洋人の説を取次ぐ蓄音機の様なものとしては調法だが。近時我邦に於ても當面の實際問題で澤山大問題が起つたので翻譯では間に合はなくなつて。存外愚論を吐いてる人も少くない様だ。全く現状暴露の悲哀だ。家がない家賃が高くなる。低利の金で家を作れといふが如きは。丁度腹が痛い。注射をしろ。熱がある。解熱劑をやれ。通じが悪。下劑を掛けろといふ對症療法より知らぬ藪醫者の様な氣がする。著者と雖家屋がなくて人心の不安を來して居る様な場合に。多少の對症療法をやる事が敢て悪いとは

云はぬが。之と同時によく其原因を討ね。根本から治療する策を立てねばならぬ。而して學者から一向根本策を聽くの光榮を有せずして。唯對症療法のみ聽かざるゝ如きは聊失望せざるを得ない。

家の需要が非常に多いのである。而して其供給が非常に不足するのである。材料が無いのか。さうではない。資本が缺乏したか。さうではない。ドン／＼建てゝ居るが間に合はないのか。さうでもない。借家拂底の源因は唯一である。前にも述べた家主攻撃の聲が借家の増加を妨げて居るのである。物價が二三倍になつて飯が食へぬ

から。從來持つて居る家屋の家賃さへ二三倍にせうとしても。世間の攻撃が甚しいので我慢して居る。こんな人氣の中で此高い材料と高い職工を使つて貸家を作る人があれば大慈善家か氣狂か馬鹿の骨頂である。馬鹿か氣狂の供給を待つて居ても待甲斐がなさうなので。終に市で建てたり資本家に慈善的に建てさせたりして居る様だ日本人は少し困難すると直ぐお上や資本家の救助や慈善に縋らうとする陋習がある。而して物價相當に家賃も拂ふから建て、呉れといふ勇氣が少い。其癖資本家を攻撃する。一體今度家主を攻撃して人口の増加に伴ふ家屋増

加の勢を阻止し。市民に不安の念を起させた根本の源因は何處にあるのだ。家屋が無くて困るくゝと謂つて居る人の中に家主攻撃の氣風を拵へ上げた元兇が居るのではないか。盗人を捕へて見れば我子なり。救濟を呼んで居る人の中に突き落した下手人が居るのではないか。

家屋ばかり安い筈はない。相當に高くてもよい。今は家が足りないから。之を作つて呉れる家主は感謝すべきものだといふ風に新聞などの調子がなつて見給へ。家屋は忽ち供給過多になるだらうと思ふ。けれども著者は此際都市の住宅難は或程度まで救ふたら捨て、置いてもよ

いかと思ふ。國民の都市集中は。世界共通の問題ではあるが困つた傾向の一だと思ふ。之が爲には近頃大阪市でも大大阪市の計畫が發表され。我東京市も大東京市の計畫中である様だ。が果してこれ何年間大大阪と大東京の發展に應じられるか。よし應じられるとして其何年かの後は如何。將た又應じられさへすればそれで問題はないのか。我邦でも漸々農業者が他の職業に轉するのは止むを得ざる勢であるが。之と同時に農業以外の人は悉く都市に集中するといふ風を阻止せぬと。一方には經濟上知識上の腦充血に陥り地方は貧血し涸渴することになつて

國力發展上甚面白くない。又一方には國民道德の上に淳撲剛正の氣風が失せて。華奢輕薄の俗が一世を風靡する様になる恐れが多い。然るに時々都市の住宅難や生活難が起るのは。誠に天の配劑。即自然療法であつて、之が二三年も續けば傳習的に都市には居るが必しも都市に居なくてもよい様な人は漸く地方へ轉住する事になる。又新工業が起るとしても。都市の地所家屋が高い。其他の生活難もあるとすれば。多少の運賃位損しても工場を地方に建てる事になる。さうなつて來ると。地方に金も散じる。知識人物も散じる。始めて四肢にも血が廻つて來

て腦充血の症狀も消滅するのである。之と同時に地方で徒に遊んで居る女兒供の手迄工業に利用されて國富を増すのである。昨年も北陸地方を旅行して加賀の金澤へ行つた。百萬石の御城下に煙突が一本しか見へぬ。何だか聞いたら火葬場だといふ。然らば同地方には人物がないか金がないかといふと。人物は澤山あるが大抵東京へ集中して居る。金は全國の日本銀行支店中金澤程有價證券の保護預けの多い所はないさうである。事業がなくて金があつて文化が古いと來て居るから。料理店や藝者の立派な割に市中に飲食店の少いのと古道具屋の多いのが目

につく。公債證書を持つて遊んで居る人が多いのだから。政争が甚しくて宿屋も料理屋も黨派別である。御近所の高岡や福井に比べると。公債證書はたんとあるさうだが如何にも貧血して居る様に感じる。こんなに貨幣の價值の下落する世の中で金や公債で持つて居ては。知らぬ間に金澤は貧乏するだらう。何か工業でも興しては如何ですと云ふたら。近頃紡績會社發起の目論見があるが。それも大部分東京の人が興こすのだといふから。それは猶更よい。東京の血が此地方へも廻つて來れば。東京の腦充血も此地方の貧血も共に幾分かよくならうと謂つた事

を思ひ出した。

然るに都市で少し借家難生活難が起ると周章て、家の心配をする。生活必需品の廉賣を始める。ソラ注射だ。ソラ下劑だといふのである。其結果は折角地方へ出やうかと意を決した人迄又腰を下ろす。地方に建設せんとした工場までさうでもないと考へ直す様になる。都市自身から見れば良策かもしれないが。國家から見れば確に考へ考すべき價值はあると思ふ。

戦時からして莫大な利益を得て五割十割といふ様な高配當をする會社があつた。それが物價騰貴の一原因だと

いつて騒いだ人もあつたが。その多くは製品が海外へ高く賣れた爲であつて。海外に高く賣れれば内地にも高くなければ賣らぬのは已を得ぬ。中には海外から商品が來ないので。安く出来るものを方外な値で貪つたのもある様だ。こんなのを暴利取締にかけてもよいと思ふが。それは極小數であつたと思ふ。問題になるものとしては紡績會社であつた様だが。其利益の最多かつた鐘ヶ淵などで昨夏七割の配當をして。株主の所得は最初から平均すれば一割一分強にしかならぬといふことである。猶當分高配當が取れさうになると新會社の續興は免れざる所

で。此頃紡績會社の發起が中々多い唯目下の處機械の購入が六ヶ敷い爲に十分に出来ないけれども。原則として利益の多い會社は忽ち競争者が續出して。自然に其利益を薄くするものである。紡績機械の如く外國から購入せねばならぬもので。それが久しく來惡いと云ふことになれば。必内地で製造される様になる。是も需要あれば供給ありといふ原則から必さうなる筈である。之に就いて考へることは。前に述べた英國が日本へ紡績機械の供給を差控へて居るといふ噂などは。日本で紡績機械を製造する動機になると思ふから。大天祐であるかもしれぬ。

故に方外の利益を貪るといふと忽ち競争者を作つて自ら苦まねばならぬものだから。千載一遇の時に於て多少の高配を得た會社があつても。甚しく咎め立てる必要もないと思ふ。咎め立てた所で全局に大した影響はないと思ふ。

けれども此競争による自然の調節に洩れるものが二つある。一つは國家市町村等の獨占的營業である。就中煙草の如きは随分暴利とも云へるが。税だといへば仕方もない。之を反對に東京市の電車賃の如きは今少し上げて設備も従業員の手當もよくして遣り度い様な氣がする。

之が若他の工業などであつたら直ぐ行はれるが。新聞も學者も多數といふものが一番恐ろしいのだから。電車賃の値上げは容易に行はれない。之に關聯して思ひ出すのは。二三年前に見た事實だか。伊豫の海岸から松山を経て道後温泉に到る電車（輕便鐵道であつた？）が。二條殆相駢んで通つて居る。二つとも私立會社の經營であるが。一は政友會の電車。一は憲政會の電車と呼ばれて居る。始めは政治家の愚劣なる競争から起つたことらしいが。近頃では相方とも經營困難で其愚劣なことが分つて來て。幾度か合併談か持上る。然るに何時も公衆の妨害

が甚しくて成立しないさうである。それは合併して競争が止めば。今の様な低廉な賃金では迎も乗れなくなるこゝとが。主なる理由であるさうだ。此理由は保證出來ぬ。又今日では現に合併したかもしれぬが。兎に角政争の弊と多數の壓力と競争が物價を下げるこゝとの例に他人からもよく聽かされる事實である。

暴利を貪つても競争に依りて制せられぬものゝ今一つは特許權の附屬する事業である。これとても大層利益があるといふことが公になれば。必競争的發明が起つて來る。又餘り貪れば世人は之を買はなくなる。高くても買

ふ間は他の品を用ゆるよりも利益なのである。即ちまた廉いのである。『利益を得るのは社會から感謝されるのだ』といふ原則は茲にも例外にはならない。其結果事業が非常に大きな利益を得ても。一定の年限を経過すれば特許権は消滅するのである。而して其利益が大きければ大きい程。國民の發明心創造力を刺激して。猶有益なる發明を奨励するようになるのだから。特許に伴ふ利益を餘り壓迫するのは善いことではないと思ふ。

話は非常に散漫になつたか。要するに物價調節策としては。生産の増加と需要の抑制より有効なものはない。

而して生産の増加を圖るには。資金を潤澤にし。金利を低廉にし。機械と工場を増設し。労働者を増加し。其賃金を低廉にしなければならぬ。需要の抑制には奢侈の自制。儉約の勵行を奨励し。同時に資本金の散して浪費者階級に入ることを抑ゆる策を採らねばなるまい。金が浪費者の手に在る間は調節は恐くは効果はあるまい。

大局管窺終

著 君 太 恒 野 矢

ポケット論語
 金利精覽
 三位乘除表
 縮刷藝者論
 日歩計算表
 屠蘇危言
 大局管窺

定價	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	一、二〇	一、五〇	一、〇〇	八、〇〇
郵稅	〇、四	〇、四	一、八	〇、四	一、二	〇、四	〇、四

東京 博文館 日本橋

東京 小西書店 橋本

大正九年二月十日印刷
 大正九年二月十五日發行

(贈品)

東京市日本橋區通三丁目一番地
 第一生命保險相互會社內

矢野恒太

東京市京橋區南小田原町二丁目十六番地

金津三之助

東京市京橋區南小田原町二丁目十六番地

小西書店印刷部

印刷所

印刷者

發行者兼

大清宣統二年正月十五日

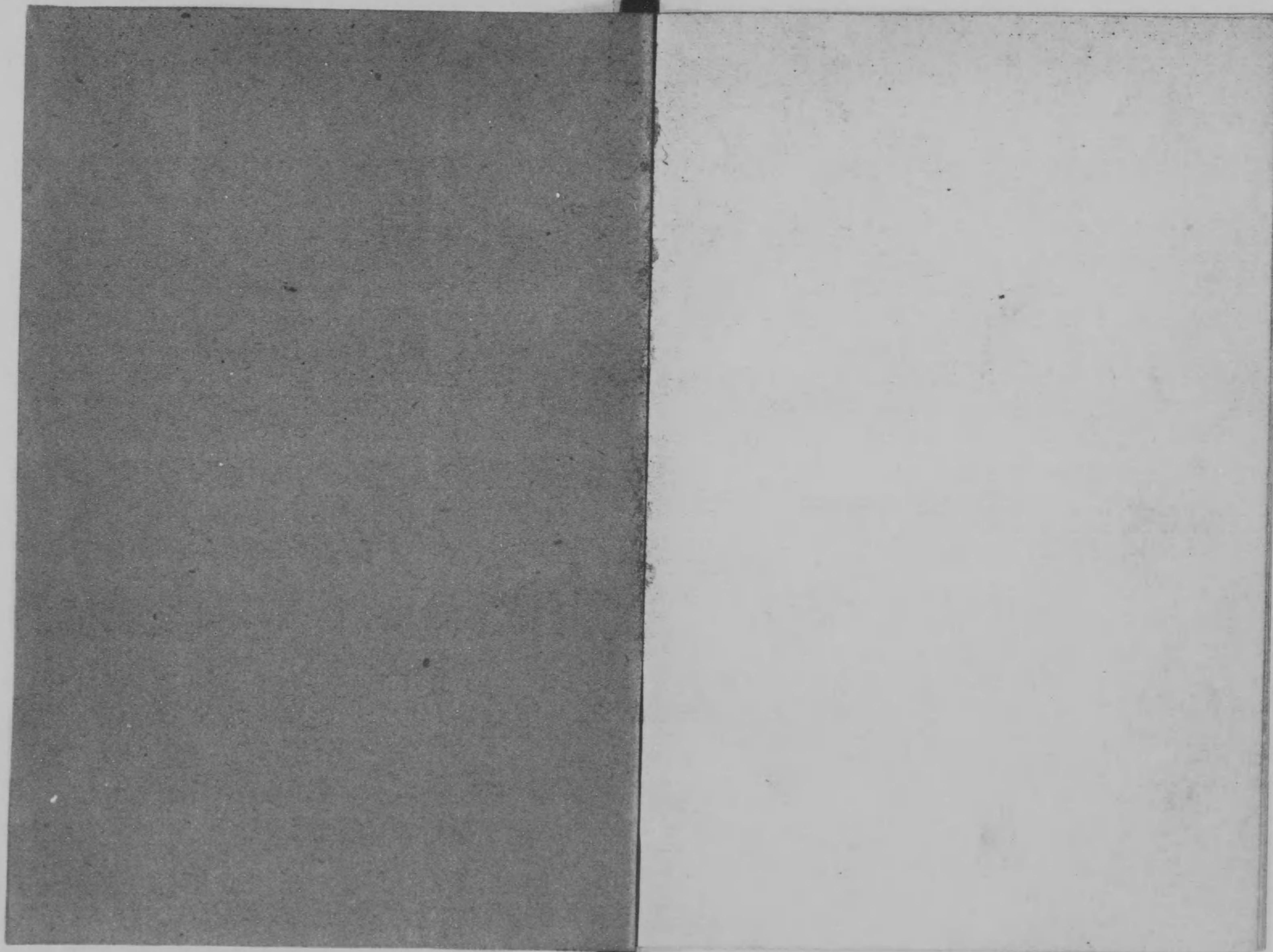
大清宣統二年正月十五日

大清宣統二年正月十五日

大清宣統二年正月十五日

大清宣統二年正月十五日

大清宣統二年正月十五日



388
211

9.8.29

終